

万富東大寺瓦窯跡と重源関連遺跡 2

岡本芳明

【講座の概要】

万富東大寺瓦窯跡は、鎌倉期の東大寺再建瓦を製造した窯跡として、昭和二年（1927）に国史跡に指定されている。14 基の瓦窯や操業当時の礎石建物跡、工房跡などが確認されている。製造された瓦は、東大寺の大仏殿のみではなく中門や回廊、南大門、鐘楼にも使用されたと考えられており、30～40 万枚の瓦を生産した大規模な瓦製造工場であった。

「源平の戦い」によって焼失した東大寺は、大勧進（東大寺復興の責任者）となった俊乗房重源により、朝廷や鎌倉幕府などの支援を得て復興再建された。復興の資材や財源などを確保するために、七別所や東大寺造営料国が設置される。備前国は、建久四年（1193）に造営料国となった。備前国では、古来から焼き物の生産が盛んであることから、瓦の生産地に選ばれたのであろう。同じ造営料国である周防国からは、大仏殿建築などの木材が供給されている。

重源上人は、東大寺復興を進めるなかで、各地の仏教の布教に努め各拠点には念仏堂や湯屋を建立している。また、荘園の開発や交通整備に伴う土木事業を行って戦災復興にも貢献した。

前回、万富東大寺瓦窯跡とその周辺の重源関連遺跡を紹介した。今回は、それ以外の重源関連遺跡について、東大寺復興との関係を考えながら紹介する。

・吉備津彦神社（岡山市北区一宮）

備前国一宮。境内から「東大寺」刻印のある瓦や「吉備津宮常行堂」刻印のある軒瓦が出土している。吉備津宮常行堂があったと考えられる。

・湯迫山浄土寺（岡山市中区湯迫）

備前四十八ヶ寺の一つ。境内から「東大寺」刻印のある瓦が出土し、重源上人の備前国での拠点であったといわれる。岡山県指定史跡の大湯屋跡がある。

・周防阿弥陀寺（山口県防府市）

周防国が東大寺造営料国となり、周防阿弥陀寺は、その拠点として創建された。湯屋は創建当初からの重要な施設で、再建・改築を重ねて現在にいたる。仁王門には、創建時のものと思われる湯釜が残る。

・その他の東大寺瓦出土地

吉井川の川底（岡山市東区西大寺）や旭川の川底（岡山市南区福島）、百間川米田遺跡（岡山市中区米田）、安養寺（和気町泉）、慶運寺跡（赤磐市可真上）から東大寺瓦が出土している。

・新山廃寺（総社市黒尾新山）

開基が弘法大師との伝承をもち、平安時代末期には、「備中別所」とも呼ばれ全国に名高い霊場であった。旧境内には、鎌倉期のもと思われる「鬼の釜」と呼ばれる湯釜がある。

【交通】万富東大寺瓦窯跡：JR 山陽本線「万富駅」から北東へ徒歩約 400m

【参考文献】

『太田吉岡村誌』赤磐郡太田村・吉岡村立千種尋常高等小学校組合 1924

『泉瓦窯跡・万富東大寺瓦窯跡』岡山県教育委員会 1980

『改修赤磐郡誌』赤磐郡教育会 1940

『史跡万富東大寺瓦窯跡確認調査報告』瀬戸町教育委員会 2003

『図録 重源とその時代の開発』大阪府立狭山池博物館 2002（図：重源上人の備前・備中での活動）

『瀬戸町誌』瀬戸町 1985

『総社市史 考古資料編』総社市 1987

『土井遺跡・谷の前遺跡・慶運寺跡』岡山県教育委員会 2005

『百間川米田遺跡 4』岡山県教育委員会 2002

『平成 12 年度防府市内遺跡発掘調査概要』防府市教育委員会 2002

東大寺再建関係略年表

西暦	和暦	事項
1180	治承四	源平の争乱で東大寺が焼ける。 以仁王が平氏追討の令旨を発する。源頼朝が挙兵。
1181	治承五 養和元	重源、造東大寺勸進職に任命される。大仏の螺髪を鑄始める。 平清盛が死去（64歳）。
1185	元暦二 文治元	「壇ノ浦の戦い」で平氏が滅びる。 東大寺大仏開眼供養。
1186	文治二	周防国が東大寺造営料国となる。翌年より、杣から木材を切り出す。
1187	文治三	源頼朝、東大寺復興の木材運搬を妨害しないよう周防国の地頭に命ずる。 この頃、周防阿弥陀寺創建。重源、備前国荒野開発の妨害停止を奏上。
1190	建久元	東大寺大仏殿上棟。
1192	建久三	後白河法皇が死去。播磨国大部荘を東大寺領として復興し、播磨浄土寺を建てる。
1193	建久四	播磨国・備前国が東大寺造営料国となる。
1195	建久六	大仏殿・中門などが完成。東大寺供養が行われる。重源、大和尚号を得る。
1196	建久七	魚住泊・大和田泊の改修計画が認められ、国衙に協力が命じられる。 東大寺大仏殿の石の脇土像、四天王像、中門の石獅子などがつくられる。
1199	正治元	東大寺南大門の上棟。源頼朝が死去。
1203	建仁三	東大寺総供養。 『備前国麦進未進納所惣散用帳』に万富産の瓦を示す「吉岡御瓦」の語句あり。 重源、『南無阿弥陀仏作善集』作成。翌年、東大寺東塔の造立を開始。
1206	建永元	重源、東大寺浄土堂で死去（86歳）。



重源上人の備前・備中での活動